

あすはまだより 5月8日（金）

みなさん、こんにちは。れんきゅうがおわり、春本番^{はるほんばん}のあたたかい日がつづいて
いますね。はまかぜきゅうのベランダのいちごも、花がいっぱいさき、小さな
いちごの実^みができる日も、そう遠く^{とお}はないかんじです。



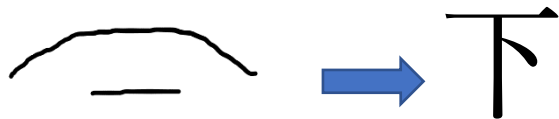
さて、今日は、先週^{きょう}にひきつづき、漢字^{かんじ}のなり立ち^{はなし}についてのお話をします。

前回は漢字^{かんじ}がどのように作^{つく}られたか、四つのうちの二つをお話しました。かんた
んなものの形^{かたち}を絵にあらわし、線^{せん}がきにしたもの（象形文字^{しょうけいもじ}といいます）で、
たとえば、ながれる川は、ながれをあらわす絵^え「SSS」から、「川」という字にな
りました。また、すでにできている象形文字^{しょうけいもじ}をくみ^{くみ}合わせて、新^{あたら}しいみをあ
らわしたもの（会意文字^{かいいもじ}といいます）で、たとえば、木+木+木⇒森（木がたく
は
さん生^はえているところ）などがありましたね。

今日は、漢字^{かんじ}がどのようにつくられたかについて、のこりの二つについてお話
したいと思います。象形文字^{しょうけいもじ}、会意文字^{かいいもじ}につづく三つめの方法^{ほうほう}は、一、二、三、
上、下のように、形^{かたち}のないものを記号^{きごう}としてあらわすやりかたです。このよう
にあらわした漢字^{かんじ}を指示文字^{しじもじ}といいます。たとえば、上という字は、きじゅんの
線^{せん}の上に、みじかい線^{せん}を書^かく ∟ ことで、「うえ」のいみをあらわします。そ



して、ながい時間^{じかん}をかけて、げんざいの「上(うえ)」という漢字^{かんじ}になりました。

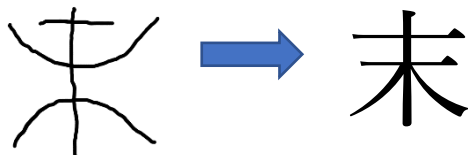
では、指示文字^{しじもじ}のそのほかのれいを見てください。





きじゆんの線^{せん}より下に、みじかい線^{せん}を書くことで、「した」のいみをあらわす。



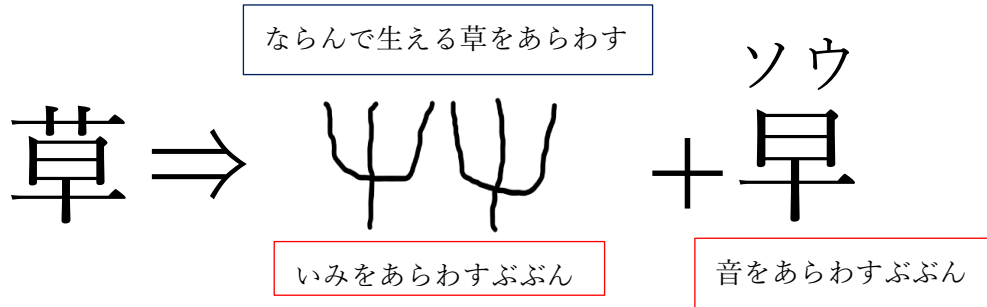
木をあらわす象形文字^{しょうけいもじ}に、 根元(ねもと)のぶぶんに、しるし をくわえて、「もと」をいみする「本」という漢字^{かんじ}になった。



木をあらわす象形文字^{しょうけいもじ} に、木の先(さき)のぶぶんに、しるし をくわえて、「もののせんたん、まったん」をいみする「末」という漢字^{かんじ}になった。

つぎに、漢字^{かんじ}がつくられた四つめの方法^{ほうほう}は、いみをあらわす文字と、音をあらわす文字とをくみ合わせるやりかたです。このようにつくられた漢字^{かんじ}を、形成文字^{けいせいもじ}といいます。私^{わたし}たちがげんざい使^{つか}っている漢字^{かんじ}のうち80パーセントいじようが、形成文字^{けいせいもじ}です。

「草（くさ・ソウ）」という字で、見てみましょう。

草 ⇒ 

このように、「草」という字は、ならんで生える草^{くさ}をあらわす「いみのぶぶん」と、「読みかた（音）^{おと}のぶぶん」が合わさってできていることがわかりますね。

このように、四つ^{ほうほう}の方法^{かんじ}でつくられる漢字は、とても多^{おお}くの字があるのです。それをわたしたちが、何年^{なんねん}もかけて学^{まな}んでいるのですね。

ただ、ぼうだいな数^{かず}がある漢字^{かんじ}も、なりたちを考^{かんが}えながらおぼえると、きおくにのこりやすく、とてもおもしろく学^{まな}べることがあります。家^{いえ}でも、この漢字^{かんじ}はどの方法^{ほうほう}でつくられたかなと考^{かんが}えてみてくださいね。

では、また明日^{あした}！